

洞口さんへの不当処分弾劾！ 怒りのメッセージ！

人間環境学部 1 年生

「HOUSEI UNIVERSITY」当然、「法政大学」の英語表記である。

では、UNIVERSITYとは何か？

UNIVERSITAS、ラテン語のこの単語が語源となっており、「学生によって運営される形式の大学」という意味を表している。UNIVERSITYを名乗る以上、「学生による自治が存在しなければ」ならないはずである。

だが、今はどうか？

学際実の前で「自治とは何か？」
「施設管理権を認めたら、自主性が奪われるのではないか？」と疑問を提起した洞口さんに処分が下ろうとしている。キャンパス内でビラまきしていたOBを、大学職員を名乗ったジャージ軍団が殴り倒す（2009年6月9日付のジャパントイムズに載りました）。

これで、「民主法政」などと言っているのだ。とんでもない、この状態ではもはや民主ではなく、法大当局が今行っていることは、彼の大虐殺王、A・ヒトラーと同じである。

ところで、洞口さんへの処分が決定されているらしい。

その理由は「6月10日、1限の人間環境学部の授業を妨害した」というものだそうです。

だが、この事実をそのまま鵜呑みにするのは少し早い。私もその授業にいた者ですから、「少しおかしい」と思うところがあるのです。まず、彼女は必ず先生が来るとすぐに帰ってゆく。この事実、その授業に参加している学生たちに聞いたら「YES」としか答えられないだろう（知らんと言う人もいるかも知れんが）。

では、6月10日はどうであったか？

当局の職員が3人やってきて彼女を引きずり出していったところを私は見ていた。授業時間開始前の出来事でした。

その後、授業は何事もなく平然と行われていた。



「洞口さんへの不当処分許すな！学祭規制 撤廃」を掲げた6月30日のデモ

また、当該授業の教授が「授業妨害はなかった」と言っているのに、当局側は彼女を処分しようとしている。

そう考えれば、結論は一つ。

洞口さんへの処分は、不当であるのではないか。

情報を集め、少し頭を使えば、分からないようなことでもわかるようになるものだ。

学生の仕事は、「今、普遍的に見える現象」に、疑問のメスを入れ、その疑問を自分、そして仲間たちと討論して、自分たちにあるべきあり方を自分なりに解明することである。法政大学は、今、これが欠けている。

自分たちの都合に良い教育や規則を押し付け、従わない者には弾圧を加える。まるで発展途上の、開発独裁国のようだ。

だが、弾圧によって人を従わせようとしても、無駄なことである。

弾圧された人間は、確実に支配者には従いたくなくなるものだ。

起て、全国の学生よ。革命を勝ち取れ。

文化連盟副委員長・恩田亮君



洞口さんはビラをまき、演説をし、政治討議を呼び掛けた罪で処分されました。これはつまり、民主主義の否定以外のなにものでもありません。全く正当性のない処分を、こともあろうに教授会が決定したというのだから開いた口が塞がりませんね。理事会に刃向かったから処分された、と、本音を言っているようなものです。

教授のくせに20歳そこそこの若者を納得させる言辞を弄すこともできないのでしょうか。あるいは学生を舐めていて、端から説明を放棄しているのかも。

さて、当局がムキになって学生から政治を奪おうとするのには理由があります。彼らは今の快適な体制を壊されたくないのです。毎年学費が上がる学費スライド制や、学生を完全奴隷化した当局主導の組織体制=CSKをはじめとする学内組織などによって、1千万を超える年収と決して脅かされることのない盤石の地位が成り立っているのです。

CSKは当局が投げるわずかなパンくずが惜しくて、決して対立姿勢を示そうとはしません。それどころか、率先して当局の意をくみ、学生を統治しようとするでしょう。

ところが、学生運動が出現したらどうなる

か。当然のごとく、財界人を気取った理事会は批判の対象になり、学生の承認を欠いた学費スライド制等の諸規則は否定され、教室や研究室で偉そうに正論を語る教員たちは、その行動や言動から審判的になることでしょう。理事の俸給、教員の給与も追及されます。もとはといえば、原資は我々の学費だからです。

そしてわが世の春を謳歌することはできなくなるでしょう。そうなるのを予防するために学生運動は古いと喧伝し、犯罪だと叫び、見せしめ的に処分・逮捕を乱発し、学生運動を解体して、若者から政治を奪うのです。

つまり、洞口さんへの処分は我々学生全般への恫喝であると言えます。大げさだとか、飛躍しすぎと言う向きもあるでしょう。

かつて2004年、学生会館が解体された時、いずれは飲酒規制にいきつくという声も「大げさ」という火消しにありました。だが現実には飲酒規制に至っている。全ての規制は攻撃であり、攻撃は明確な目的の下に一貫して完遂されます。

今こそ我々は学生運動を復活させ、学生の手で政治を取り戻さなければなりません。クソ高い学費や監視カメラだらけのキャンパス、酒の飲めない大学は変革できます。みんなでぶつかれば簡単に体制は崩壊します。

さあ一緒に行動しよう。まずは洞口さんへの処分を弾劾することからはじめよう。ぜひ署名をしてくれ！

国際文化学部 1 年

みなさん。また一つ法大当局が学生に不当な弾圧を加えました。

6月10日、あるクラスで授業前に学祭規制反対のビラを配っていた事実を持って授業妨害として洞口さんに処分を下されたのです。

もちろん、この処分理由にはいっぺんの正当性もありません。

なぜなら第一に、妨害も何もビラを配っていたのは授業前であること、第二に当該クラスの教授が「彼女は授業妨害などしていない、彼女は処分しないで欲しい」と訴えていること、第三に当該クラスの誰もが「授業妨害など無かった」といっており、それどころか、逆に「処分反対」のクラス決議まであがっているというこ

とです。

さて、法大当局がいかなる意図を持って今回の処分を下したのかは明らかです。

全学説明会に洞口さんをださせない、この一点を持って法大当局は臨時教授会を開き、でっ上げの「授業妨害」を作り上げたのです。

学生のみなさん。今こそ声を上げましょう。

法大当局はあらゆる学生の普遍的利害を侵害しています。

ならば我々学生はその全結集で持って奴らの「営業権」を侵害してやろうではありませんか。

学生の怒りを、多数者の怒りを見せつけてやろうではありませんか。

是非7・7集会に結集を。

ともに法大解放のため頑張りましょう。